

梓川の
世帯数・人口

世帯数	4,695戸
人口	12,624人
男	6,229人
女	6,395人

(令和2年、3.1現在)



第25回

梓川女性フォーラム

梓川女性団体協議会主催の梓川女性フォーラムが、1月25日(土)に梓川公民館で開催されました。

女性フォーラムは25回目を迎え、テレビや新聞、ラジオなどで広く活躍される横山タカ子(料理研究家)さんの講演会が開催されました。当日は約150人が参加し、例年以上に大きな賑わいをみせました。

講演会では「地元の食を楽しむ」をテーマに、味わい豊かな季節の地元野菜を使った料理こそが、健康な身体づくりにつながると話しました。また、横山さんのオリジナルレシピ2品を味わい、一つは、いった黒豆をお米と炊き上げた黒豆ごはんのおにぎり、2つ目は、蒸しリンゴに炊飯器で作った米糍の甘酒をかけたリンゴの甘酒。参加者は試食しながら、横山さんの話にメ

モをとり、熱心に話を聞いていました。

この中で、趣味は「暮らし」と話し、四季折々の風情を楽しみながら、ご主人との日びの暮らしも紹介されました。

参加者は「試食でいただいたリンゴ甘酒は、昔母が作ってくれたことを思い出し、懐かしく感じた」「食の大切さを改めて感じ、今日の講演の内容を子育て中の娘や嫁にも伝えたい」と話していました。皆さん満足して帰っていきま

した。なお、本年度で主催者の梓川女性団体協議会が解散となり、梓川女性フォーラムも今回が最後の開催となりました。



▲講演をする横山タカ子さん

信州梓川賞展

梓川流域の文化や風景をテーマに描かれた作品を展示する信州梓川賞展が2月8日(土)から3月8日(日)まで梓川アカデミア館で開催され、今回の応募数は、一般の部72点、小中学生の部375点あり、一般の部最高賞の梓川賞には岩淵学(安曇野市)さんの「母さん」が選ばれ、小中学生の部では最優秀賞に降旗望愛(三郷小学校3年)さんの「りんごえん」が選ばれました。

式典では、梓川賞を受賞した岩淵さんが代表で挨拶をし「この絵は疎開で田沢に来ていた頃のとても辛かった時代の母の思い出で、今は戦争のない時代、この平和を噛みしめて生きて欲しい」と話していました。

審査員代表の挨拶では、松本市美術館館長の小川稔氏が「岩淵さんの作品は審査員一同びっくりした。とにかく言葉

にならない物語が画面より溢れ出ていて、思いの込められた情熱がつたわってくる。これは絵画にとっても大切な力」と講評しました。



▲梓川賞を受賞した岩淵学さん

令和元年度
梓川地区福祉のつどい

梓川地区社会福祉協議会主催の梓川地区福祉のつどいが2月8日(土)に梓川公民館で開催されました。

今回の福祉のつどいでは、ハンディを抱えながらも県内外で演奏活動を行う「楽団ケ・セラ」の皆さんによるコンサートのほか、社会福祉協議会・梓川公民館などの各団体の展示コーナーが設けられました。演奏者の丸山(男性)さんは入団13年目で「今回のコンサートに向けて年明けから練習し



▲楽団ケ・セラの演奏

てきました。間違えないように演奏したい」同じ楽団のムードメーカー橋本(女性)さんは、「最初から終わりまで楽しく演奏をがんばりたい」と緊張しながらもコンサートを楽しんでいる様子でした。

演奏会後、コンサートに来ていた小松常盤さんは「大変いい演奏で感動した、各町会の公民館でもぜひコンサートをしてもらいたい。『ケ・セラ』の皆さんには様々な場所でも幅広く活躍していただきたい」とコンサート熱気そのままの感想を話していました。

演奏の最後にはアンコールの拍手も起こり充実したコンサートとなりました。

当日は時おり雪の舞うあいにくの空模様となりましたが、寒い中大勢の参加者で賑わいました。

和太鼓体験教室

梓川公民館主催の和太鼓体験教室が、1月26日、2月2日に梓川体育館で開催されました。小学生の親子16人が参加し、和太鼓の基本的なたたき方などを梓川の和太鼓団体・梓川十八会のメンバーから教わりました。

参加者は、初めてたく和太鼓に、最初は遠慮がちにたたいていたが、慣れてくると元気に力いっぱいたたき、和太鼓の威勢のいい音色やリズムを楽しんでいた。2回の講座でしたが、「梓川祭りばやし」一曲を、息を合わせて演奏することができました。

日本の伝統文化である和太鼓の魅力全体を感じ、今後多くの人に興味を持ってもらえればうれしいと話していました。



▲元気に和太鼓をたく参加者

箱膳体験講座

和食としては一般的だった箱膳の体験講座が、2月25日に梓川公民館で開催され、13人が参加しました。

まず、講師のまつもと農村女性協議会(東山部)のメンバーから、箱膳のことや箸使いを含めた和食の作法について学び、その後、和食の基本である一汁三菜の献立を調理し、お膳で食事を楽しみました。

参加者は「和食文化のすばらしさを改めて感じ、子どもや孫にも伝えていきたい」と話していました。

「和食」とは単なる料理だけではなく、日本人が長年培ってきた自然を大切にする心、食の知恵や工夫まで含めた食文化であると学んだ一日でした。



▲お膳で和食を楽しむ参加者

消防団員募集

新年度が始まるにあたり、今回は本業を持ちながらも消防団員として地域住民の安全・安心のため防災の最前線で活動している、二木英明分団長(松本市消防団第36分団)にお話を伺いました。

Q 日頃は消防団活動ご苦労様です。火災出動以外に、消防団としての活動を簡単に説明していただけますか？

A 毎月1、2回消防車での広報・警戒のほか、土砂災害警戒情報や、洪水警報発令時には、危険箇所の見廻り点検を行っています。他には定期的に各種訓練もしています。

Q 令和元年度は分団長から見てどんな一年でしたか？

A 小規模な火災は何軒かありましたが、梓川地区内はおおむね平穏な一年でした。

Q ニュースなどで団員確保の難しさが話題になりましたが、36分団の現状はどうですか。また、梓川地区の皆さんにお願いはありますか？

A 36分団の現状として団員確保は大変厳しいですが、



▲取材に協力してくれた二木分団長

現役団員や友人からも声を掛けてもらうなどして、年一人ほど入団している状況です。今後は町会の皆様にご協力をいただき、各行事を通じて団員確保していきたいと思っています。

Q 最後に一言お願いします。

A 近年自然災害が猛威をふるう中、地域とのつながりを大切にしながら消防団活動を行っていききたいと思っています。

皆さん、ぜひ消防団に入って私たちと梓川地区を守ってみませんか。

私たちも消防団に関心を持って、自分たちの地域を守っていかないとけないと感じました。消防団に興味のある方は、松本市消防防災課(☎33-1191)までお問合せください。

梓川公民館
ボランティア募集中

◆学校支援ボランティア

「地域の皆様が特技や経験、学んだことで教育活動をサポートしたい」という思いと、「梓川小学校や中学校からの要望」とをマッチングするため、これまでのクラブ活動講師などに加えて学校支援ボランティアを募集しています。

◆身近な公民館の講師

ボランティア

梓川公民館及び町内公民館が計画する講座・学習会などで、知識や特技、経験、学んだことを活かして講師をしていただける個人・グループを募集しています。

◆あずさっ子見守り隊

あずさっ子見守り隊は、学校通学時のあいさつや、声かけなどの「見守り」活動を行っています。活動時間などは指定せず、隊員の皆さんの生活スタイルに合わせ、無理のない「見守り」をお願いしています。

【問い合わせ・申込先】

梓川公民館

(電話78-3000)